

柿生文化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所: 川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話: 044-988-0004 (柿生中学校)
<http://www.kakio-kyodo.com>
 第62号

明治初年 柿生にも起きた

廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)運動を考える(1)

廃仏毀釈とは

明治元年(1868年)新政府が神仏分離令を出し、それまで神社と寺院が一体化していたものを切り離すものでした。実質的には仏教を排斥する運動につながり、全国各地の寺院や仏像、仏具などが破壊されることになりました。柿生でも主に真言宗寺院が廃寺となったり仏像が壊されるという事態に発展しました。

柿生の廃仏毀釈跡

右の写真は黒川の真言宗「金剛寺」跡の毘沙門堂近くに見られる石仏で、多くの石仏の上半身が破壊されています。この寺院は明治初年に廃寺となったようですので、恐らく廃仏毀釈運動によって廃寺となり破壊された



金剛寺跡の石仏群

のでしょう。かつて柿生には左の表で示すような宗派の寺院がありました。これを見ますと廃仏毀釈の関係で明治初年に廃寺となった寺院数は真言宗が一番多いようです。

宗派	江戸後期の数	明治初年廃寺の数
天台宗	0	0
真言宗	8	5
浄土宗	1	0
浄土真宗	1	0
日蓮宗	4	0
臨済宗	3	0
曹洞宗	6	1

廃寺となった寺院としては現在、地名だけ残っている真言宗の「真福寺」があります。真福寺交差点からさらに50mほど王禅寺方面に進みますと、右側に真福寺跡が見えてきます。墓地はさらに跡地の標識より小道沿いに上に上がったところにあります。また新編風土



真福寺跡の石仏群

記稿には万福寺村の十二神社近くに真言宗の「医王寺」が存在しました。これも明治初年廃寺となり、現在では残っておりません。なお万福寺は戦国時代の「小田原衆所領役帳」には登場しており、中世後期までは存在しましたが、江戸時代にはすでに廃寺となっていたようです。その理由は不明です。

以前、神・仏はどんな関係にあったのでしょうか

江戸時代までは、寺院と神社は一体の関係にありました。今でも寺院境内に神社や祠(ぼり)があって神様が祀られていることがあります。江戸時代ではこれがごく普通のことでした。

そもそも仏教が日本に入ってきたのが538年、朝鮮の百濟(くだら:ペクジェ)の聖明王が欽明天皇に教や仏像を献じたのが始まりでした。

日本にはもともとたくさんの神がおり、主に自然物を神として崇拝するアニミズム(山石、木などの自然物)の形態をとっていました。それは縄文時代・弥生時代そして古墳時代へと祭祀儀礼として引き継がれてきました。

したがって日本の信仰は仏教に比べると経典があつて高い理論に裏付けられた宗教では決してありませんでした。日本のそれは宗教というよりも、むしろ日本人が長い間自然環境の中で育んできた原始信仰という文化であつたのです。ですから宗教として確立された仏教とは全く次元の異なった存在であつたわけです。それは決して対立する性質のものではなかつたのです。それがやがて日本に仏教が広まる理由になつたものと思います。

『日本書紀』には欽明天皇が百濟から伝わつた経を見て『昔から今日までこのように優れた教えは聞いたことがない』『西の国が献上した仏の顔はなんと気高く(けだかく)厳か(おごそか)なことか。今まで見たことはない』と蘇我氏とともに絶賛しています。

一方、物部氏・中臣氏は『我が国は今までのたくさんの自国の神々を祀り拜んできました。今、隣の国の神を拜むということは国神(くにかみ)の怒りに触れてしまいます。』と反対しました。仏教の是非は豪族同士の争いに発展し、最後は仏教賛成派の蘇我氏が反対派を抑え、やがて摂政となつた聖徳太子とともに仏教興隆政策を推し進めることとなります。(以下次号に続く)

参考資料:「神仏習合」連日出版・「神仏分離」(圭室文雄)

(文:板倉)

シリーズ

「麻生の歴史を探る」 第32話

亀井六郎 ～亀井城の謎～

小島 一也 (柿生郷土史料館相談役)

亀井六郎に関する伝承・逸話はいろいろあるようです。六郎は弓の名人で、亀井の城から放った矢が真光寺川を越え届いたところが能ヶ谷の矢崎橋、弁慶との交友を示す馬の借証文、義経伝承の鍋ころがし、二枚橋、広福寺納経の逸話。そして藤沢の首洗い井戸(殉死の石)、湘南台の亀井神社(六郎創建という)があり、さらに遠く栃木県宇都宮には「亀井の水」、同市堀之内には「六郎墓石」が観光案内で知られています。「亀井の水」は静御前に共した一行が水に飢えた際、六郎の錫杖が大地を突くと水が湧いたと伝承され、また「六郎墓石」は堂状の石室におさめられた五輪塔で亀井の小名があり名所になっています。



亀井六郎の墓と筆者

また、岩手県大東市の観福寺という古刹には「亀井六郎の笈」が寺宝として残されています。私は寺の刀自から笈(お:書物などを入れて背負う箱で、竹で編んである)の写真と由緒をいただいたことがありましたが、それは義経北行説の由緒で、義経・六郎は密かに平泉を抜け出てこの寺に投宿、そのお礼に六郎の笈を置いていったとする伝承でした。悲劇の武将源義経に仕えた亀井六郎は各地でその名が知られているようです。



観福寺

それでは亀井六郎と亀井城との関わりはどのようなのでしょうか。平成初年柿生中学校考古学部の生徒さんが「亀井城は誰のものか」をテーマに研究発表をしています。その際私も生徒さんのお尋ねに応じたものですが、その研究は中学校の部活動を越えたものでした。卒業後も顧問の先生と研究を進め、「平安・鎌倉の頃、この地に武士の館があり、その後戦国時代には北条氏側の砦が構築されていた」と結論付けました。謎を残しながらも、その成果を平成6年に「あしあと」と号して小冊子にまとめています。左の遺構図はその「あしあと」からお借りしたもので、よく調査したものと感心させられます。現地は鎌倉街道の中の道一下の道を結ぶ日野往還沿いにあり、府中へ三里、鎌倉へ五里の交通の要地です。昭和初年まで街道に面して敷地千坪ほどの「亀井」と称する旧家(小島姓)がありました。その背後に幅10m程の道の遺構が途中架橋で途切れながらも西麓を迂回台地に達しており、日野往還の出入口には岩盤を穿った水飲み場がありました(現クリアガーデン麻生台)。



亀井城跡遺構

左図中に示す日野往還は現在は麻生台団地の道路となっていますが、麻生不動から通ずる谷戸の堀切でした。館は二つの郭に分かれ、このうちの二の郭は軍馬を養う厩曲輪(うまぐら)と考えられます。5の番号が振られた辺りは狼煙台(のりだい)があったところで神明の森と呼ばれ、30m程の昼なお暗い谷(お化け嶽)があり、その尾根道が現おつ越山公園-山口台-弘法ノ松を通じて櫛形山に至っていました。

なおこの地の周辺には横穴古墳が多いのが特徴で、そのいくつかは「やぐら」(鎌倉時代の武士の墓)に再利用されていて、中世この地に武士が住んでいたという柿生中学校生徒さんの研究を裏付けています。

さらにこの研究は亀井六郎の出身を熊野の鈴木家と併せ、近江の佐々木家(菅生に所領あり)と考察しています。そして亀井城跡には鎌倉～室町時代に館があり、後の戦国時代にいたって麻生の郷主小島佐渡守が後北条方(小田原)の城郭を築いたとしています。

参考資料:「栃木・岩手県観光ガイドブック」「柿生中学校考古学部(あしあと)」

シリーズ
私の少年時代(3)

岡上逍遙 — 高蔵寺・白坂横穴墓・沢山城跡

海老沢芳夫(柿生郷土資料館支援委員)

高蔵寺しづかやと散葉眺めいて梢の柿のつやつやしいろ

昭和10年の秋、北原白秋は晩年に柿生の王禅寺から足を延ばして高蔵寺を訪ねた折に、自然の中のお寺をこう歌ったものです。

その見星山三輪院高蔵寺(三輪町1739番地)は空海を始祖とする真言宗豊山派の寺で、600有余年のあいだ連綿と法灯を守って今日に至る、歴史の重みを持つ古刹です。多摩八十八箇所霊場の10番札所でもあり七福神としゃくなげ寺、そして北原白秋ゆかりの寺として親しまれています。

開山は康安2年(1362年)4月ですが、当時は南北朝の争いが続いていたときで、その影響は武州多摩郡柚木領三輪村にも及び、足利將軍家代々の武運長久の祈願所として建立されたものと伝えられています。開基は権大僧都法印定有とあります。

明治維新となり、慶応3年10月、御朱印地11石5斗をたまわった格の高い寺といえます。過去には上・下三輪の神社(熊野・梶山)を管理していました。

この由緒ある寺も永正4年(1507年)と嘉永6年(1853年)の2度の火災にあい古記録や両神社の由緒書等も焼失してしまいました。現在の本堂は安政6年(1859年)に再建され、昭和41年に改修を受けています。本尊は大日如来で、寺宝としては密教寺院だけにある涅槃像、狩野派絵師岸驅筆の「鶴に牡丹図」があります。

寺小屋 当時、県では300戸に1校の目安で学舎を設立する計画を立てていましたが、戸数が及ばず隣村と組んで明治6年5月高蔵寺において、研精学舎(三輪能ヶ谷村)と行政区も学区も違う岡登学舎(岡上村)合同で寺子屋が開設されました。明治8年には共研学舎(金井村)も加わり、3つの学舎の生徒が高蔵寺の門をくぐり学んだと伝えられています。明治8年6月に村名に合わせて岡上学校と改称され、研精学舎は従前の名で踏襲され継続されました。

白坂横穴墓 この地は昔から沢山城のあったところで、白坂は城坂の意であるともいわれています。この白坂には古くから開口していた横穴墓が10基近くありますが、さらに未開口を含めると10数基に上ります。昭和34年にそのうち2基を発掘したところ、内部には5~10cm位の河原石が敷きつめられており、数体の遺体と須恵器などが発見されています。これらの横穴墓は7世紀頃造られたものと推定されていますが、この地域は多摩丘陵の中でも横穴墓群の集中しているところ、白坂横穴群はその構成の規模からみて、この地域内では充実している遺構の一つであるといわれています。

沢山城跡 三輪町にある沢山城跡は、地元では古来より城山、あるいは頂上に七面堂が建っていることから七面山とも呼ばれています。標高74m余りで、130m程度の狭い平坦部となっていて、ここが城の中心で天守があったことが推測されます。このように自然の地形を削り取って平坦にしたりして人工的に手を加え、城を取り囲むようにして土手や石垣などを張り巡らして作った曲輪(くわ)は4つあります。中世末期の城郭としての遺構を明瞭に残しているのが、町田市域の史跡としては最も貴重な城跡であるといわれています。実測と試掘調査が昭和46年に行われ、曲輪部分の地下からおびただしい焼米が出土し、注目を集めました。

この城の役割を表すものとして、広袴町吉川家より発見された北条氏照印判状があります。広袴町は麻生川の支流真光寺川が作る細長い谷戸にあり、城跡の北方向に当たります。その印判状の要旨は「広袴郷の馬を悉く三輪城に集めて、筑前(大石筑前守らしい)の部下の指示に従って御城米を直ちに江の島へ輸送するように命じたもので、その時期は印判から天正18年(1590年)頃と見られます。その前年の天正17年11月、秀吉が北条氏に宣戦布告をし、12月に氏政らが旗本衆に出陣命令を出しています。翌18年に氏直が建長寺の備蓄米を小田原城や玉縄城(鎌倉の山城)に輸送させています。このことから広袴町の印判状は天正18年頃と考えられるわけです。

このようなことから沢山城には大量の城米が保管されていたと推測できます。沢山城のある三輪は、交通面で見ると鶴見川にそって東西に走る道路と黒川・広袴・能ヶ谷・岡上・奈良を通る古道、鎌倉早の道との交差点の位置にあって、軍事・交通上からも重要な拠点であったと思われます。北条氏の支配下で城米の保管・補給陣地として重要な役割を担っていたと考えられます。

参考資料:「町田市編纂室史跡を訪ねて」「ふるさと三輪村」「町田市の寺院ファイル」「柿生の教育の歩み」他



第40回 カルチャーセミナー報告

再現されたグレゴリオ聖歌の歌声に参加者 陶醉

5月26日(土)丸山智也先生(二期会:王禅寺中央中教諭)をお呼びして『1745年のグレゴリオ聖歌が再現された』と題して柿生中学校武道場で講演がありました。



再現されたグレゴリオ聖歌を歌う丸山先生



1745年のグレゴリオ聖歌

今回のセミナーは、柿生郷土資料館で開催されていた実物ミニ歴史資料展「活版印刷技術が世界史を変えた」の関係セミナーとして、グレゴリオ聖歌の再現を丸山先生にお願いしました。

初めに地元王禅寺にお住まいの小林基男氏(桐蔭大学講師)に15世紀中期の活版印刷技術の改良による世界史への影響についてご講話いただきました。

丸山先生には古い楽譜の形態である四線譜(ネウマ譜)の解説をしていただきました。さらに先生自ら再現作業に取り組まれた聖歌をご披露いただきました。旋律の美しさと先生の歌声に約60名の出席者の皆さんがじっと聞き入る姿が印象的でした。セミナー後も多くの方々からの賞賛と感動の言葉を耳にすることができました。

柿生郷土史料館の活動にご支援いただいている法人をご紹介します

☆☆☆柿生郷土史料館友の会法人会員(6月10日現在)☆☆☆☆

- ★月読神社 ★琴平神社 ★王禅寺 ★常安寺 ★浄慶寺 ★麻生総合病院 ★アルナ園 ★柿生恒産
- ★虹の里養護施設 ★フィッシング王禅寺 ★多摩日吉台病院 ★川崎信用金庫柿生支店 ★かじのや
- ★JAセレサ川崎 ★志田電子製作所 ★朝日ホーム ★柿の実幼稚園 ★柿生保育園 ★花島商事
- ★観財 ★栄和 ★孝友商事 ★大平屋 ★ゲオホールディングス ★リック設計企画 ★粕谷住宅資材
- ★青戸建材店 ★スズユウ商事 ★広東商事 ★ノジマNEW鶴川店 ★丸和企画印刷 ★プライマリー
- ★石野電気柿生店 ★とん鈴 ★尾作住宅 ★尾作材木店 ★奈良工業 ★北島工務店 ★麻生自動車
- ★ティーエムコーポレーション ★松屋 ★ガスト柿生店 ★小料理わかば ★レストランベル ★カラオケゆう
- ★リフォームイケダ ★志村建設 ★荒川電気工事 ★ゆりストア王禅寺店 ★レストヴィア王禅寺
- ★菊川園 (順不同・敬称略)

柿生郷土資料館開館日のご案内

◎開館日:日曜日は土曜日、奇数月は偶数月

7月 7・14・21・28日(毎日曜日)

8月 3・10・17・24日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時~午後3時

柿生郷土資料館7~8月の催物ご案内

第4回 実物のミニ歴史資料展 (7月、8月)

「幕末海防への世論と発禁本」

主な展示資料 『戊戌夢物語(高野長英著)』『海外新話(嶺田楓江著)』『海国兵談(林子平著)』

内容 ・幕末、日本の庶民は中国で発生したアヘン戦争など海外事情を知っていたのか?
・これらの書物はなぜ発禁となったのか

公開日 **7月** 7・14・21・28日(毎日曜日)

8月 3・10・17・24日(毎土曜日)

第42回 カルチャー・セミナー (7月)

「生麦事件の真相を探る」

講師 西川 武臣氏 (横浜開港資料館副館長)

日時 平成25年7月28日(日曜日) 13時30分より

会場 柿生郷土史料館

内容 *日本近代幕開けのきっかけとなった事件の真相とは
*意外な事実が判明